*H28年熊本地震被害調査報告会

～技術士がみた熊本地震～

平成28年6月11日

主催：愛媛県技術士会

須賀　幸一（建設・総合監理）

* 1．熊本地震被害調査の経緯

（１）地震の発生

熊本地方を震源として、

・4月14日午後9時26分、M6.5、最大震度７

・4月16日午前1時25分、M7.3、最大震度７

・熊本県の布田川（ふたがわ）断層帯・日奈久（ひなぐ）断層帯から大分県の別府-万年山（はねやま）断層帯までが連動して活動 した活断層系直下型地震

(2)地震による被害

・多くの建物被害や道路被害、土砂災害などが発生し、49名の方が犠牲になり、未だに1名の方が行方不明

・高速道路、新幹線、空港などの交通網が通行止めとなるなか、ライフラインも被害を受ける

（3）調査団派遣の経緯

・ ４月23日の愛媛県技術士会の役員会で審議

（目的）熊本地震の被害状況を調査するとともに、愛媛県における地震防災・減災の課題を考える

（報告）愛媛県技術士会として調査団を派遣し、報告会や報告書のとりまとめを行う

（参加者）日程の関係で今回は、役員から参加者を募る

*2. 調査団の紹介

*【第一班】 5月6日(金)～8日(日)

*班長:須賀　幸一　副班長:増田　信、米虫　聡、

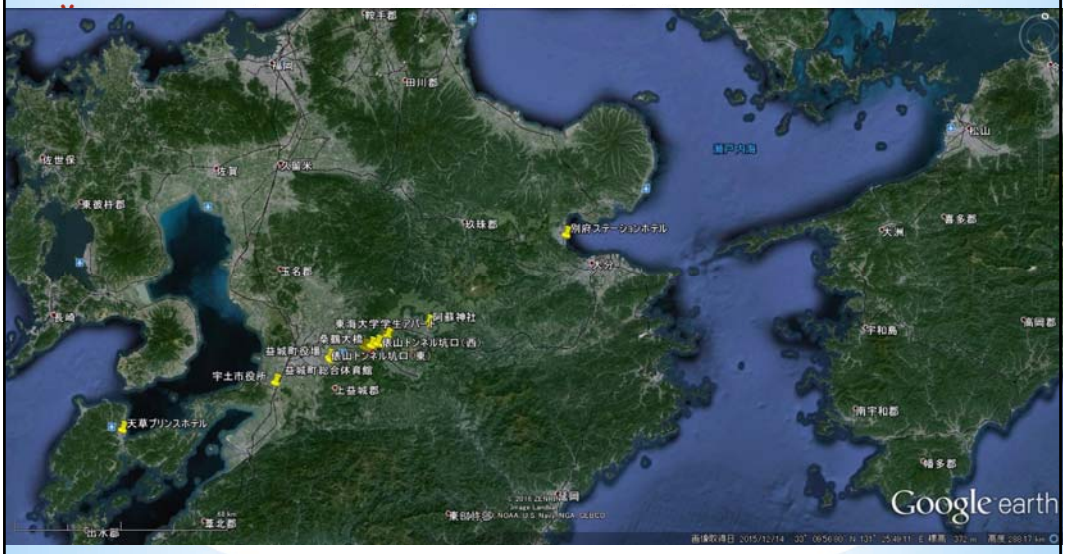
*班員:木下尚樹、田窪　裕一　(5名)

*【第二班】 5月20日(金)～22日(日)

*班長:吉岡　崇　　副班長:原田　徹、木村　一成、

*班員:稲村　貴志　(4名)

*第1班の調査ルート



*益城町の建物被害（4月17日）と道路の復旧状況（5月8日）

- *建物被害が特定のエリア（活断層沿い）に集中
- *建物被害の特徴（1階が倒壊、古い家屋、日本瓦など重い屋根の家屋、開口部の大きい建物など）
- *新しい建物の被害（2度の震度7が影響か？）
- *地盤変状による建物被害（川沿いの建物被害大）

木山交差点

寺迫交差点

寺迫橋から

*益城町の避難所（4月17日）

*益城町の避難所（4月17日）

*益城町の避難所（5月8日）

*益城町の避難所（5月8日）

*調査の目的と今後の課題

* （1）直下型活断層系地震における被害状況の調査（家屋等建物、土木構造物、土砂災害、地盤災害など）→課題や問題点について
* △避難ルートや避難所に指定されている箇所の被害状況
* △ライフラインの被害状況（電気、水道、ガスなど）
* △インフラの状況（緊急輸送路、高速道路、鉄道、空港、港湾施設など）
* （2）避難計画の実施状況（避難所、避難指示、避難所の開設、運営、救援物資、支援チーム、ボランティア受入など）
* （3）被災後の応急施工対策等の協定の実施状況（ヒアリング又はアンケート）

*第1班　調査団